



徳島大学病院ER・災害医療診療部

大藤 純 特任教授



災害医療の体制構築を

皆さんは、大規模災害が発生した場合の対策は大丈夫でしょうか。大規模災害には、地震や津波、台風などの自然災害の他、大規模事故や原子力災害などの人為的災害もあります。

大規模災害発生時には、我々医療従事者も大変です。十分な医療が行える平時の救急医療とは違い、大多数の傷病者に対して、限られた医療を迅速かつ効率的に提供する必要があります。

す。災害時には病院間の連携や災害医療における三つのT(Triage・選別、Treatment・治療、Transport・移送)に基づいた対応が必要です。また、テロや原発事故など化学(Chemical)、生物(Biological)、放射性物質(Radiological)、核(Nuclear)、爆発物(Explosive)に関連したCBRNE(シーバーン)災害への対応や、遠隔地で発生

診・搬送され、多大な混乱を生じます。徳島大学病院は、隣接する救命救急センターの県立中央病院と協力し、災害発生時には両病院に対して一つのトリアージエリアを設置して傷病者の受け入れを一本化し、重症度に応じて搬送先を選定する取り組みを行っています。

また、CBRNE災害に対しては、除染用テントを設営し、化学物質対応防護服と自給式呼

した災害に対する医療支援体制の構築も重要です。

徳島大学病院は、徳島県の災害拠点病院に指定され、災害発生時には医療の中心的役割を担います。災害発生時には、多くの傷病者が同時に医療機関を受

吸器および防毒マスクを着用して模擬患者を温水で洗浄し搬送する除染訓練を毎年行っています。その他、災害現場に赴き迅速な医療介入を行う医療支援チーム「DMAT隊員」の育成も積極的に行っています。

近年、毎年のように台風や豪雨被害が後を絶たず、また今後30年以内に70%以上の確率で南海トラフ地震が発生すると想定されています。徳島大学病院の災害対策を強化し、災害医療活動の発展に貢献したいと思っています。